土壌くん蒸剤
クロピクリンくん蒸剤

クロピクフロー®

農林水産省登録　第２１２２０号
（日本化薬（株）登録）
性状：淡黄色澄明油状液体
毒性：劇物
危険物：非該当
有効年限：３年
包装：１５ℓ

有効成分：クロルピクリン・・・・・８０.０％
（トリクロロニトロメタン（化管法第１種））

殺虫剤分類	８Ｂ
殺菌剤分類	―

クロピクフロー®は日本化薬（株）の登録商標です。

特長
○各種土壌病害やセンチュウに安定した効果を発揮します。
○灌水装置で被覆後に薬剤を施用するため、作業が簡便で、かつ、安全に使用できます。

適用病害虫名及び使用方法

作物名	適用病害虫名	１０アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数
かぶ	萎黄病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	１回
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			
トマト ミニトマト	萎凋病 ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	３回以内 （床土１回以内、 圃場２回以内）
いちご	萎黄病 ネグサレセンチュウ	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	３回以内 （床土１回以内、 圃場２回以内）
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			
なす	ネコブセンチュウ	３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	２回以内 （床土１回以内）
	半枯病 青枯病	２０～３０ℓ			
ピーマン とうがらし類	青枯病 萎凋病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	３回以内 （床土１回以内、 圃場２回以内）
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			
ほうれんそう ごぼう	萎凋病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	２回以内 （床土１回以内）
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			
いんげんまめ	萎凋病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	２回以内 （床土１回以内）
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			
きゅうり すいか	つる割病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	３回以内 （床土１回以内、 圃場２回以内）
	ネコブセンチュウ ホモプシス根腐病	３０ℓ			
うり類 （漬物用、ただし、漬物用メロンを除く）	つる割病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	３回以内 （床土１回以内、 圃場２回以内）
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			

作物名	適用病害虫名	１０アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数
かんしょ（苗床）	つる割病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	１回
にがうり	つる割病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	２回以内（床土１回以内）
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			
さやいんげん	萎凋病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			
さやえんどう実えんどう	根腐病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	２回以内（床土１回以内）
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			
しょうが葉しょうがみょうが（花穂）みょうが（茎葉）	根茎腐敗病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	２回以内（床土１回以内）
こまつな	萎黄病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	２回以内（床土１回以内）
アスパラガス	立枯病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	２回以内（床土１回以内）
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			
にら	乾腐病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	２回以内（床土１回以内）
ねぎ	萎凋病根腐萎凋病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			
パセリ	立枯病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	１回
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			
セルリー	萎黄病	２０～３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）
	ネコブセンチュウ	３０ℓ			

作物名	適用病害虫名	１０アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数
きく	萎凋病 ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	３回以内 （床土１回以内、圃場２回以内）
花き類・観葉植物（きくを除く）	萎黄病（フザリウム菌） 萎凋病（フザリウム菌） 株枯病（フザリウム菌） 乾腐病（フザリウム菌） 球根腐敗病（フザリウム菌） 立枯病（フザリウム菌） 葉枯病（フザリウム菌） 腐敗病（フザリウム菌） ネコブセンチュウ	３０ℓ	１回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	３回以内 （床土１回以内、圃場２回以内）

作物名	使用目的	１０アール当り使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト いちご ピーマン とうがらし類 きゅうり うり類（漬物用、ただし、漬物用メロンを除く） すいか さやいんげん ねぎ セルリー 花き類・観葉植物	前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、きゅうり、すいか、うり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の古株枯死	２０ℓ	前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、きゅうり、すいか、うり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の収穫終了後古株撤去前まで	１回	灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	３回以内 （床土１回以内、圃場２回以内）
	コナジラミ類蔓延防止					
なす ほうれんそう ごぼう いんげんまめ にがうり さやえんどう 実えんどう しょうが 葉しょうが みょうが（花穂） みょうが（茎葉） こまつな アスパラガス にら	前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、きゅうり、すいか、うり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の古株枯死	２０ℓ	前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、きゅうり、すいか、うり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の収穫終了後古株撤去前まで	１回	灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	２回以内 （床土１回以内）
	コナジラミ類蔓延防止					

使用上の注意事項

●温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が７℃以上の時に使用してください。
●本剤の処理に当っては、作物の播種・植付け前にガスが土壌中に十分拡散するように耕起、砕土を十分に行い、丁寧に整地してから灌水チューブを設置してください。その上からポリエチレン等で被覆し、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理してください。
●本剤の処理液が直接処理圃場より漏出しないように注意してください。
●高設栽培等架台上の培地に使用する場合、薬剤がベッドの下部等から散逸しないように、ポリエチレン、ビニール等で施設床面まで被覆してください。また、薬剤を処理する際に、ポリエチレン、ビニール等を伝わって、栽培槽から漏出しないように注意してください。
●古株枯死、コナジラミ類の蔓延防止に使用する場合、前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、きゅうり、すいか、うり類（漬物用、ただし、漬物用メロンを除く）、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが（花穂）、みょうが（茎葉）、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物に処理し、被覆期間については以下を目安としてください。また、ハウス等からクロルピクリンの臭気が漏洩しないように、十分注意してください。
　○地温が１５℃以上の時は処理後１０日位。
　○地温が低い時は処理後２０～３０日位。
●地温が１５℃以上の時は処理後１０日位、また、地温が低いときは処理後２０～３０日経過するとガスは大体抜けますが、念のためくわを入れ、土質、気温等により、なお臭気が残っている時は、よく切り返し、完全にガスを抜きを行なってから、播種あるいは移植してください。うり類は本剤のガスに弱いので、ガス抜きは特に丁寧に行うよう注意してください。
●作物の生育中には薬害を生じるので使用しないでください。隣接地に生育中の作物がある場合には、揮散ガスによる薬害に注意してください。特に、生育中の作物があるハウス内では使用しないでください。
●消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有毒な物質を作り、薬害の発生するおそれがあるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の１０日以上前に施用してください。
●他剤と混合しないでください。特にカーバム剤およびカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険であるので、カーバム剤およびカーバムナトリウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いてください。
●金属腐食性があるので、使用後の注入器具その他は水でよく洗ってください。
●薬液の入っている製品缶に水が混入すると、缶が腐食するおそれがあるので、製品缶には水を入れないでください。
●薬液タンク（ポリタンク等）に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがあるので、残存薬液は製品缶に戻さず、使いきってください。
●ミツバチの巣箱周辺では使用をさけてください。
●処理後の放置期間と効果・薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって一様ではないので、本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意してください。
●特に、初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
●適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意事項

●医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。
●誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせてください。
●本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないように注意してください。
●本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、通風の良好な場所で顔を横に向け、体を暖めながら直ちに医師の手当を受けてください。場合によっては、酸素吸入又は人工呼吸を行い、強心剤等を投与してください。
●本剤は催涙性の刺激性を有し、眼、のど、鼻を刺激するので注意してください。ガスが眼に入りひどく痛む時は、多量の水でよく洗い速やかに眼科医の手当てを受けてください。
●本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
●本剤を取り扱う際は吸収缶（活性炭入）付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用してください。
●ガス抜き作業の際も同様の防護マスク、保護眼鏡を着用してください。作業の際はガスを吸い込まないよう風向き等を十分考慮してください。
●作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
●本剤は灌水装置、施設を使用し処理するため装置や設備の接続部分は薬液の噴出等がないよう注意してください。
●本剤が衣服等に付着した場合には、脱衣して他のものとは分けてよく洗濯し、本剤の臭気が抜けるまで身につけないでください。
●かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
●作業中およびくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分注意してください。
●揮散ガスによる危被害を防止するため、本剤の処理は朝夕の気温の低い時間帯に行ってください。
●住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用に当っては、以下の事項に留意し、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮してください。
　○高温期の処理を避け、気温の低い季節に処理することをおすすめします。
　○住宅、畜舎、鶏舎が風下になる場合、処理を控えてください。
　○被覆資材は厚めのもの（０.０３mm以上）を使用してください。
　○風の強さや向きが変わり、危被害を及ぼすおそれがある場合は、ガス抜き作業を中断してください。
●本剤をビニールハウス等の施設内で使用する場合、出入口、天窓、側窓等を開け通気をよくして作業を行ってください。
●作業後は直ちに密閉し、臭気が残っている期間にはハウス内に入らないでください。くん蒸後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
●本剤は皮膚に対して強い刺激性があります。
●危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意してください。

水産動植物に係る注意事項

●本剤は水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散、流入するおそれのある場所では使用しないでください。
●散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管に関する注意事項

●直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。